

平成26年度 第8回春日区地域協議会  
次 第

日時：平成26年9月17日（水）午後6時30分～  
会場：上越文化会館 中会議室

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 題

(1) 地域活動支援事業に係る意見・課題及び改善策等について

資料No. 1

(2) 委員視察研修について

資料No. 2

4 その他

・次回開催日程について

     月      日 ( ) 午後      時      分～

5 閉 会

地域活動支援事業に係る地域協議会からの意見・課題 【春日区】

資料NO.1

検討の論点	委員がシートに記載した内容 ※賛否両論があった場合は、両論を併記しています。	検討結果
提案書の簡素化について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・申請書をもっと簡素化してほしい。</li> <li>・現状でよい。</li> <li>・必要な項目をもっと絞って簡素化すべきである。</li> </ul>	①市へ報告すべき内容かどうか (必要・不要) <input checked="" type="checkbox"/> 不要 ②報告する場合の集約意見 [ ]
地域協議会委員が審査することについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に必要な事業を審査するのであるから、地域協議会の目的に合致している。</li> <li>・地域協議会の委員はスーパーマンではない。専門的な事柄に関係した事業の審査に必要な知識や経験が不足している。このままで審査させるのであれば、それなりの教育、研修などを充実させる必要がある。</li> <li>・審査に地域の有識者や町内会長なども加えてはどうか。</li> <li>・市会議員に任せたほうがよい、経費削減につながると思う。</li> <li>・地域協議会委員が審査することに無理がある。事業の内容によっては行政が審査したり、合議制にするなど工夫すべきかと思う。</li> <li>・提案事業に関して、委員が十分理解できないケースが多い。</li> <li>・提案事業を全て委員が掌握することは困難です。</li> </ul>	①市へ報告すべき内容かどうか (必要・不要) <input checked="" type="checkbox"/> 不要 ②報告する場合の集約意見 [ ]
補助希望額(見積書)の妥当性について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見積り金額は大概1社のみで、特に土木事業などは我々協議員ではその正当性(価格)が分からない。</li> <li>・市の入札では何社も競合して見積りしますが、当事業ではその価格に対しての協議はほとんどなく、減額の場合も何か無くすしか方法がない。もう少し事務局と事前に調整してから申請してほしい。</li> <li>・提案者も、どうせ出すのなら高く良いものがよいという考えが多いように思われます。インターネット等でもっと安価なもの、又は他の方法によって安くできるものがあると思います。</li> <li>・見積書の添付は2社ではなく、3社以上にした方がよい。</li> </ul>	①市へ報告すべき内容かどうか (必要・不要) <input checked="" type="checkbox"/> 不要 ②報告する場合の集約意見 [ ]
提案受付から採択決定までのプロセスについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案から決定までの時間が短すぎる。</li> <li>・提案された案件に関し、修繕または他の方法(例えば購入ではなくてリース)に変える場合、再提出になる。提案者と事務局が良く話し合い調整した方がよい。</li> <li>・それぞれの専門分野の委員が接渉に当たる方法がとれないでしょうか？また、計画実行の進捗状況なども知らせて欲しいものです。</li> <li>・事業の提案者とコミュニケーションを図り、より良い提案となるよう助言、調整できるような仕組みがあるとよい。</li> </ul>	①市へ報告すべき内容かどうか (必要・不要) <input type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 不要 ②報告する場合の集約意見 [ ]
複数年に跨る提案事業について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、継続的に実施しなければならぬ事業や単年度に実施できぬ発展的的事业もあり複数年事業は、認めるべきである。</li> <li>・全行程が分かれば認めてもよいのではないかと思う。</li> </ul>	①市へ報告すべき内容かどうか (必要・不要) <input type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 不要 ②報告する場合の集約意見 [ ]

検討の論点	委員がシートに記載した内容 ※賛否両論があった場合は、両論を併記しています。	検討結果
追加募集と次年度への残額の繰り越しについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1次募集で残額が発生した場合、次年度に繰り越すことを可能にすれば、2次の審査時間が節約でき、春日地区の課題や方向性についての話し合いが可能になる。</li> <li>・追加募集は行わず、次年度へ繰り越すことが望ましい。</li> <li>・繰り越しは、活動支援事業の趣旨に合わないと思います。</li> <li>・追加募集の審議で本来の地域活性化の審議が疎かになる。</li> <li>・真に必要な事業であれば2次募集ではなく、1次募集で提案すべきと考える。残余が生じたから2次で応募したというイメージがある。</li> <li>・支援事業の審議に時間を要し、自主審議や研修の時間が取れない。</li> <li>・1次募集で終わる仕組みが必要である。①支援期間(年数)を明確にし、年度にまたがる調整を可能とする。②提案者と事前協議、助言を可能とする。</li> <li>・追加募集は必要ないと考えます。</li> <li>・活動支援事業の審査に終始してしまう現状があり、春日地区の諸課題や方向性(自主的審議)について話し合いができていない。</li> </ul>	①市へ報告すべき内容かどうか (必要・不要) ②報告する場合の集約意見
備品購入等のハード事業の提案について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備品購入のあり方が問題になっている。全市で統一したあり方を検討し、その地区の振興に寄与するものであってほしい。</li> <li>・事業によってはインシヤルコストの支援がないと提案できないケースもあると思われる。</li> <li>・近年、備品購入のみの申請が目立ちます。</li> <li>・ハード整備への支援の基準を明確にし、必要に応じて採択するように検討してはどうか。</li> <li>・備品購入の是非は、提案の内容によって異なると思います。</li> <li>・常識の範囲内で認めるべきである。</li> <li>・楽器や運動用具等、小中学校の児童生徒が学校活動で使用する備品購入の事業が多い。これが全市に派及したら、とても支援事業の予算では間に合わない。補助の対象とすべきものかを考えた方がよいと思います。</li> <li>・春日区ばかりでないが、後援会等による学校の楽器購入提案があるが、中止させた方がよい。</li> <li>・一部学校に購入され、欲しくても購入できない学校もあり格差が問題視されている。</li> </ul>	①市へ報告すべき内容かどうか (必要・不要) ②報告する場合の集約意見
人件費を補助の対象経費に含めることについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアといっても限度がある。労働者、有資格者の賃金として支払うべきである。</li> <li>・ケースバイケースで提案内容によると思います。</li> <li>・地域活動支援事業の予算に主催者たちの人件費を認めるべきかと思う。この人件費が認められないために、外部の業者を使ったりしている。</li> <li>・事業を提案、運営する人たちが100%ボランティアで活動するのは無理がある。市との協働で有益な事業として成果を上げている事業などは人件費を認めるべきかと思う。</li> </ul>	①市へ報告すべき内容かどうか (必要・不要) ②報告する場合の集約意見

検討の論点	委員がシートに記載した内容 ※賛否両論があった場合は、両論を併記しています。	検討結果
市が行う事業について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が行う事業は、今までどおり廃止でよい。</li> <li>・市が行うまで何年も待たされる可能性がある。地域活動支援事業の対象として復活すべきと思う。</li> <li>・平成26年度の地域活動支援事業予算総額を前年度から減額された。この言い訳として市が行う事業が廃止された。このように減額のための理由とせず、復活させてもよいと思う。</li> </ul>	①市へ報告すべき内容かどうか（必要・不要） ②報告する場合の集約意見  
採択決定後の事業評価について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の成果と評価を現在は事業提案者が行っているため、第三者的な評価が行われていない。事業の成果と評価はできれば委員が行うべき。（委員の負担が大きくなるため、難しいかも知れません）</li> <li>・事業については成功するものと失敗とまでは言わないが、成果の上がないものが出てくるのは当然である。審議の中で評価時期等についても考えるべきではないか。</li> <li>・複数年で評価しなければならぬ事業もあり、成果を急いではならないと思う。</li> <li>・活動報告と現地調査が必要である。（担当を決めての調査が良い）</li> </ul>	①市へ報告すべき内容かどうか（必要・不要） ②報告する場合の集約意見  
地域活動支援事業の予算規模と地域自治区間の予算流用について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の財政の厳しき折、縮小も考えて行かなければならぬものと思います。配分方法は、均等+人口割りの現行方法でよいと思う。</li> <li>・地域自治区間の予算流用は管理が難しい上、力のある所に配分金が片寄る可能性があり、反対である。</li> <li>・各区を良くするために地域自治間の予算流用を認めるべきである。</li> <li>・財政難の中で地域活動支援事業のあり方を考えなければならない。段階的に支援事業の予算額を減額してはどうか。</li> <li>・地域の活性化にとって重要な事業は、別途市で予算化するか、寄付金などで運営できるよう団体等を指導してはどうか。</li> <li>・先般、行革の説明を受けました。各方面に渡りスリム化あるいは健全化施策を目指すことは当然のこととして、支援事業はその位置づけ（市議、町内会長）や年間わずか2億円（0.17%）としても10年で20億円。公約は理解するが支援する事業が必須（毎年継続等）であれば市の本来事業として取り上げるべきではないか。</li> <li>・地域を活性化するには、現在の事業を縮小すべきではないと思います。</li> <li>・地域活動支援事業は村山市長が始められた事業であり、今後市長の交代によって廃止される可能性がある。地域の活性化等に寄与している事業の継続ができなくなる事態が考えられる。</li> <li>・規模の縮小はあっても、地域活動支援事業は当面継続させるべきと思う。</li> <li>・各々の事業はできるだけ予算面での自立を図る。地域住民からの協力金、企業、団体、個人などからの寄付などからの収入増である。</li> </ul>	①市へ報告すべき内容かどうか（必要・不要） ②報告する場合の集約意見  

## 委員視察研修について

## 1 目的

地域協議会委員の見識の向上、及び日頃の委員活動の一助とするため、地域協議会単位で視察テーマを定め実施するもの。

## 2 これまでの視察内容

- ・平成24年度（春日山城跡、長野市松代町）
- ・平成25年度（ねごしの里、地滑り資料館、上越妙高駅）

## 3 検討事項

(1) 実施の有無 「実施する」又は「実施しない」

(2) 実施時期 10月中旬～12月上旬（候補日を2～3日決めてください）

## (3) 研修テーマ（案）

**A案** 「伝統文化の継承と地域おこしの取組み」（桑取地区、片道30分程度）

春日区の近接エリアで活動し、全国的にも地域おこしの優れた活動が注目されている“NPOかみえちご山里ファン倶楽部”のスタッフから、活動理念や地域おこしの取組みの説明を受け、地域コミュニティの考え方などを学びます。

**B案** 「中越大震災の教訓と減災のまちづくり」（中越地域内、片道1時間程度）

中越大震災の被害と復興の記録を学ぶことができる施設（小千谷市の“そなえ館”、又は長岡市の“きおくみらい”）を見学した後、柏崎刈羽原子力発電所の構内、及び展示館を見学します。（スタッフからの説明あり）  
※そなえ館は毎週水曜、きおくみらいは毎週火曜、原発は毎月第1水曜不可

**C案** 「コミュニティビジネスの可能性」（長野県北部、片道1時間半程度）

長野県小川村の「株小川の庄」は、従業員の平均年齢が68歳でありながら年商は8億円以上、ビジネスの視点を組み入れた地域課題解決の成功事例を学びます。（スタッフからの説明あり）※毎週月曜、祭日の翌日は不可

**D案** 「地域資源を活用したまちづくり」（村上市又は高岡市、片道2～3時間）

歴史的景観を活かしたまちづくり活動を展開する団体のスタッフから活動の経緯等の説明を受け、地域資源の考え方等を学びます。

**E案** 春日区タウンウォッチング

見る箇所や視点をあらかじめ決め、バス及び徒歩で移動、各委員は随時メモを取り、その日の内に謙信交流館等で視察結果を踏まえた意見交換を行います。